



冠野札之塵

40

3869
90





冠野札之塵

3869
90

90

3869
90

3942
24

都立



都立

蘆荏

大正七年三月寄
室井平藏氏贈

蘆荏の葉の裏に
かゝるに種々の
書名人のやうに
見えていゝもの
は多からぬ
まのつゝめまじりの
まけがらのふも
色まじりぬる

子よき心とてまじり
 去る人ともいふ
 捨己すはるる捨く
 捨く等々業はいで
 其の
 かきとる
 あくはる
 了存十石とて
 まじり

風竹齋
 也

題目録

①
 いふは(戻り)一廿出
 をも高有
 いふ
 石
 勢ひと
 妹脊山
 い
 論
 六根

①は 掃はらひ志こころをシ ちぬいて

みうお出で 鼻はなの毛け ④

けこの毛け ちちどめめらら

櫛くしの上うへで 花はなが咲さく

花はなも葉はと成なるなり 鼻はなままが免ま

鼻はなよりけけ 札はつつ香か

世よの念ねんひ 方かた代しろ名な易やす

櫻おうのさままがら ちちづづらら ⑥

⑤に ほほむむびびぞぞれれ ちちづづらら

ままののしし ちちづづらら

二ふた階かい住す居ゐ 二ふたかかののらら

庭にわへへ ちちづづらら

櫻おうのの中ちゆうも ①は ちちづづらら

ホホイイ仕し中ちゆうも 保たもちちがら

弘ひろへへ 保たもちちがら 本もと石いしままららず

②へ 枕まくらありりううせせ 原はらのの雪ゆきははのの雪ゆき

千ち子こ紅べに横よこ好この 乃のままりりのの香か

へへんんのの毛けももああららうう へへししのの香か

可か肉にくつつきき へへどどままりりしし

づづのの香かりり ちちづづらら

取れし^九 飛上^{あが}り

報んで出^でて ちか

とらふよ^{十一} 時^{とき}しる

とらふい^{十一} ともおの

とらふ車^{くるま} 東^{あづま}西^{にし}

とらふ^{十一} ともじ^{十一} 仕^しおせ

地^ち面^{めん} 定^{さだ}中^{ちゆう} ちく^{ちく}生^{せい}め

智^ち人^{にん} 勇^{ゆう} 色^{いろ}の^の ちん^{ちん}を^を下^げ結^{むす}で

子^こ州^{しゅう} 色^{いろ}の^の ちん^{ちん}を^を下^げ結^{むす}で

ちん^{ちん}を^を下^げ結^{むす}で

利^りハ^ハ十^{じゅう}分^{ぶん} 理^り証^{しやう}せ^せあ^あて

か^かの^の 物^{もの}し 税^{ぜい}務^む 織^{おり}

わ^わの^の 物^{もの} ちん^{ちん}を^を下^げ結^{むす}で

ちん^{ちん}を^を下^げ結^{むす}で

法^{ほふ} 法^{ほふ} ちん^{ちん}を^を下^げ結^{むす}で

思^{おも}ひ^ひ ちん^{ちん}を^を下^げ結^{むす}で

ちん^{ちん}を^を下^げ結^{むす}で

男^{おとこ}と^と ちん^{ちん}を^を下^げ結^{むす}で

飛上^{あが}り

ちか

とき

ともおの

あづま にし

ともじ 仕

ちく せい

ちん げ

ちん げ

ちん げ

り しょう

ぜい む おり

ちん げ

ちん げ

ちん げ

ちん げ

ちん げ

ちん げ

ヲト集知ナニナ 心ココロ

心ココロ 心ココロ やヤ 心ココロ

心ココロ 心ココロ 心ココロ 心ココロ

心ココロ 心ココロ 心ココロ 心ココロ

心ココロ 心ココロ 心ココロ 心ココロ

心ココロ 心ココロ 心ココロ 心ココロ

心ココロ 心ココロ 心ココロ 心ココロ

心ココロ 心ココロ 心ココロ 心ココロ

心ココロ 心ココロ 心ココロ 心ココロ

心ココロ 心ココロ 心ココロ 心ココロ

心ココロ 心ココロ 心ココロ 心ココロ

心ココロ 心ココロ 心ココロ 心ココロ

心ココロ 心ココロ 心ココロ 心ココロ

心ココロ 心ココロ 心ココロ 心ココロ

心ココロ 心ココロ 心ココロ 心ココロ

心ココロ 心ココロ 心ココロ 心ココロ

心ココロ 心ココロ 心ココロ 心ココロ

心ココロ 心ココロ 心ココロ 心ココロ

心ココロ 心ココロ 心ココロ 心ココロ

心ココロ 心ココロ 心ココロ 心ココロ

く〜ん 廿三

おが〜ん 怒の世の中 廿二

よ〜ん あせそへ 廿一

よ〜ん あせそへ 廿一

た〜ん た〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

よ〜ん よ〜ん 廿三

おが〜ん 怒の世の中 廿二

よ〜ん あせそへ 廿一

よ〜ん あせそへ 廿一

た〜ん た〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

な〜ん な〜ん 廿四

つこまおこのせき つこま出で

ついそそとおお 猫ねこああででああ

念佛ねんぶつゆゆ な あんあんらんらんも

ああささささささ せ 物ものままららし

鳴なりりりままああささ 淡うすままららし

何なにととやや 中ちゆうままららしし 三十

何なにががよよささ 菜さい種しゆのの盛さかり

菜さい種しゆのの蝶てつでで 長なが遠とほ留りゆうとと

何なに時ときととやや 何なに時ときととやや 三十

ああままららしし 名な紙し紙しとと

法ほふががななららしし ああままららしし

中ちゆうしし味あじのの ちゆうまらし

中ちゆう入いととやや 中ちゆうままららしし

⑤ 中ちゆうままららしし ちゆうまらし

燭しやくのの らんまらし

舞まひ生せいのの むまらし

表ひょう飯はんのの ひょうまらし

一いちとと半はんでで 半はんのの半はんづづれ

姉あねとと あねまらし

福ふくとと ふくまらし

④ 福ふくとと ふくまらし

① うれなま ハヤ 夢あ ハヤ 花
の ツケ 舟 ハヤ 舟 ハヤ の 舟 ハヤ

の ハヤ 舟 ハヤ 舟 ハヤ の 舟 ハヤ
の ハヤ 舟 ハヤ 舟 ハヤ の 舟 ハヤ

の ハヤ 舟 ハヤ 舟 ハヤ の 舟 ハヤ
の ハヤ 舟 ハヤ 舟 ハヤ の 舟 ハヤ

② 焼餅 ハヤ 餅 ハヤ 餅 ハヤ 餅 ハヤ

の ハヤ 舟 ハヤ 舟 ハヤ の 舟 ハヤ
の ハヤ 舟 ハヤ 舟 ハヤ の 舟 ハヤ

の ハヤ 舟 ハヤ 舟 ハヤ の 舟 ハヤ
の ハヤ 舟 ハヤ 舟 ハヤ の 舟 ハヤ

の ハヤ 舟 ハヤ 舟 ハヤ の 舟 ハヤ
の ハヤ 舟 ハヤ 舟 ハヤ の 舟 ハヤ

の ハヤ 舟 ハヤ 舟 ハヤ の 舟 ハヤ
の ハヤ 舟 ハヤ 舟 ハヤ の 舟 ハヤ

の ハヤ 舟 ハヤ 舟 ハヤ の 舟 ハヤ
の ハヤ 舟 ハヤ 舟 ハヤ の 舟 ハヤ

の ハヤ 舟 ハヤ 舟 ハヤ の 舟 ハヤ
の ハヤ 舟 ハヤ 舟 ハヤ の 舟 ハヤ

の ハヤ 舟 ハヤ 舟 ハヤ の 舟 ハヤ
の ハヤ 舟 ハヤ 舟 ハヤ の 舟 ハヤ

こぼろ半十 こんぼろ半十

乞食こぼろ 乞食こぼろ

約こま 鞭むち え て て て

て 四十二 て

天てん て て て

出い あ あ あ

崩お あ あ あ

ああ あ あ あ

ああ あ あ あ

ああ あ あ あ

ああ あ あ あ

ああ あ あ あ

ああ あ あ あ

ああ あ あ あ

ああ あ あ あ

ああ あ あ あ

ああ あ あ あ

ああ あ あ あ

ああ あ あ あ

ああ あ あ あ

ああ あ あ あ

きんぎょのうろ アキナ ちんちん アキナ

きんぎょの アキナ ちんちん アキナ

きんぎょの肌 アキナ ちんちん アキナ

きんぎょ アキナ ちんちん アキナ

④ 目 アキナ ちんちん アキナ

きんぎょ アキナ ちんちん アキナ

きんぎょ アキナ ちんちん アキナ

① けい アキナ ちんちん アキナ

けい アキナ ちんちん アキナ

志 アキナ ちんちん アキナ

志 アキナ ちんちん アキナ

⑤ 志 アキナ ちんちん アキナ

志 アキナ ちんちん アキナ

志 アキナ ちんちん アキナ

志 アキナ ちんちん アキナ

志 アキナ ちんちん アキナ

志 アキナ ちんちん アキナ

志 アキナ ちんちん アキナ

世々辛三の辛三 教せう生せいのし系けい

世せ信しん孤このこ 世せのの系けい

縁えんのの系けい 世せのの系けい

漱しゆ九くのの系けい 子し里りのの系けい

殺ころ敵てきのの系けい 十じゆかかのの系けい

十じゆのの系けい 系けいのの系けい

系けいのの系けい

冠かん珣しゆん机けいのの塵ちん



浪なみ速すみ 戲ぎ坊ぼう芦ろ笛ふえ選せん

いろはいろはのの序じゆ

今いま飲いん滯ちゆうのの箸しゆ出しゆのの序じゆ

一いちのの序じゆ

神かみにに逢あふふのの道みち 身みのの序じゆ

方かたのの序じゆ

方かたのの序じゆ

婦ふのの序じゆ

帝ていのの序じゆ

新にも出で

終るべく世は此の如く

いそがし

廣くすつたものけあは

いそがし

頼るも中絶あり

居るもの

ちりあはれにけあは

あ人が此處にあり

報子も世切も惚れ

一日の事

よびし重頼刻にナア

人の煙りのけあは

勢いよ

あはれにけあは

意地

兄の時よむほご

コシとらふもの

やらぬあはれもの

小豆の煙るも

妹背山

紐ヒ 鍵カギ と 玉タマ と 糸イト と

新ニギ 糸イト

糸イト の 切キ 紐ヒ と 丸マル と 糸イト

丸マル と 糸イト 上ウ が 糸イト と 糸イト

安ヤス 板イタ の 方カタ に 渡ワタ さ 糸イト

ヤイ 犯ト ん で も こ こ へ 糸イト

〜 糸イト

差サ 糸イト と 糸イト の 紐ヒ と 糸イト

燭ロク と 糸イト

古コ の 層ソウ の 紐ヒ と 糸イト

昆コン 布フ 巻マキ も 糸イト の 紐ヒ と 糸イト

論ロン と 糸イト

席セキ と 糸イト の 糸イト と 糸イト

福フク と 糸イト

糸イト の 糸イト と 糸イト と 糸イト

六ロク 根ネ は 糸イト

糸イト の 糸イト と 糸イト と 糸イト

輪リン と 糸イト

糸イト の 糸イト と 糸イト と 糸イト

山口有馬筆小庵

掃心

大坂

新

早

一

キ

カ

げ

又

張

そ

あ

鼻

初

坊

吹

取

立

え

あつた

あつた 三つ ちんちん ちんちん

焼餅 近 雨 中 一 ちんちん

始

茶 居 月 風 ちんちん

橋 上 下

ちんちん 一 灰 吹 ちんちん

魚 釣 ちんちん ちんちん

花 び 咲 ちんちん

い ちんちん 紙 ちんちん

花 び 咲 ちんちん

橋 ちんちん ちんちん

鼻 ちんちん

首 筋 の ちんちん ちんちん

大 橋 ちんちん ちんちん

曲 尺 切 ちんちん ちんちん

鼻 ちんちん

あ ちんちん ちんちん

ちんちん ちんちん

唇 ちんちん ちんちん

おえ 晴れゆく 春通し

机の背も

柳 柳の 柳の 春通し

情ふ 春通し 春通し

春通し 春通し

立 春通し 春通し

万代不易

今 春通し 春通し

憚 春通し

磯 春通し 春通し

春 春通し 春通し

陽 春通し 春通し

ふ 春通し 春通し

春通し

川 春通し 春通し

春通し

濱 春通し 春通し

春通し

春 春通し 春通し

春 春通し 春通し

ふらしし

志をく 續く 桃灯 持

あつさく 振ふ 日 相 出

似るもふ

極らどもも 新らし

かつをも 籟ハ ころの 味

二階 住居

ハイ ちり多らん お 蘭 主

二階 うら

禮を 拍子で 吹き

庭へ 下り

法いでも 多液さし

ふらささ

あはま 癒癒の 怪ひ

あはつ ちり多らん 赤さ

モウ かまひの 鬼

怪ひ 申す

銀ハ どの こと

ほんま さん

富士の 裾の 月ぬし

不仕者よ

掃 掃 掃 掃 掃 掃 掃 掃 掃 掃

掃 掃 掃 掃 掃 掃 掃 掃 掃 掃

掃 掃 掃 掃 掃 掃 掃 掃 掃 掃

深養

軸 子 衣 袴 袴 袴 袴 袴 袴 袴

佛 佛 佛 佛 佛 佛 佛 佛 佛 佛

お 焼 出 集 出 集 出 集 出 集

末 石 末 石 末 石 末 石 末 石

磨 磨 磨 磨 磨 磨 磨 磨 磨 磨

帆 帆 帆 帆 帆 帆 帆 帆 帆 帆

振 振 振 振 振 振 振 振 振 振

ち ち ち ち ち ち ち ち ち ち

浮 浮 浮 浮 浮 浮 浮 浮 浮 浮

有 有 有 有 有 有 有 有 有 有

送 送 送 送 送 送 送 送 送 送

舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞

下 下 下 下 下 下 下 下 下 下

あ あ あ あ あ あ あ あ あ あ

口 の も つ き 瓜 糸 で 解 き

物もの々々葱ねぎ志しづづんんででトトヤヤ

魚いしももううつつ音ね

遠とほくくももううぶぶけけ張はかかるる

藤ふじふふけけいい別べつのの結むすみみのの目め

をを納のうめめのの馬うまににああせせ

雨あめ戸と一ひと粒つぶ日ひ一ひとああららるる

行い時ときももああららるる

ををううららままううてて持もちちおお出で

輪りん坂さかのの石いしののりりややせせぬぬ

へへいいししららるる

上かみ糸いと糸いと紅べに便べん々々

膏こう小こつつくく庭にわがが好このむむ

可か内ないつつまま

平へい石いし石いし后ご一ひと遠とほ入いるる

嘔おう吐とををららしし

切き口くちととケケワワリリししとと括くまま

括くままららるる毒どく性せい々々積つりり

畔はたへへ酒さけ、、車くるま掛かけけ

づづみみしし張はるる

神かみ木ぎ不ふ細こ工こうにに祈いのるる

戸松のき

口おのの世後ちる

いましんけおんよ

是言張物しん

ん

浪の下弦しん

飛びより

お囀はいん

飛下

今しんと灯の

まき

しん

どろしん

しん

音緒名中の音

おきやめ

か尻め

時

文は

膚つ

どうもいそいそ

お茶あつ汲んでえんがん

てしつ切あつて夏あつ

水、ゆき后け給へし

うきいふくへ箱あし

えんかひ

火事の櫓が魯漢中

身羽重の如し

いつゝゝ銀いゝゝ

東西

葉とあつ小玉拂こみ

どうもいそいそ

そまい餅をせんとう

高望へ中身一人

どうもいそいそ

推しまんこい犬が喰ひ

地面借り

そまい餅をせんとう

あつゝゝ鼻が日と焼は

紙の袋の中で

梅^{うめ}の^は枝^えの^は砂^{すな}と^はほ^ほし

山^{やま}の^はり^りし^しあ^あの^のう^うら^らの^のあ^あら^らい

道^{みち}の^はた^たの^のま^まま^まま^まま^まま^ま

定^{ちやう}編^{へん}で

己^{おのれ}の^はた^たで^でチ^チヤ^ヤチ^チヤ^ヤ

釜^{かま}の^はた^たり^り眼^め玉^{たま}も^もも^も

智^ち人^{にん}勇^{ゆう}

と^と食^くぶ^ぶひ^ひま^ま吼^ほつ^つら^らね

針^{はり}さ^さし^し折^お踏^ふも^もが^がま^まひ

ち^ちの^の生^{せい}あ

入^い口^{こう}一^{いつ}ち^ちの^のめ^めさ^さい

糸^{いと}ま^ま骨^{ほね}の^のや^やり^りの^のあ^あら^らい

あ^あの^の百^{ひゃく}姓^{せい}

一^{いつ}文^{ぶん}の^の店^{てん}和^わへ

刻^{とき}ん^んの^の烟^{えん}店^{てん}出^いし

通^{とほ}あ^あら^らい

引^ひ摺^{ずり}の^の足^{あし}ま^まん^んの^のあ^あら^らい

さ^さの^のあ^あら^らい^いの^のあ^あら^らい

よ^よの^のあ^あら^らい^いの^のあ^あら^らい

湯^ゆ葉^はの^のあ^あら^らい^いの^のあ^あら^らい

着人々 着の尻 尻止し

ちびと我程

紅 粉 搦 ちびと我程

ちんを下 搦ち

彫く 搦ち つかま つかま

黒い 汗 織りま 出ま ぬ

小 猫 と 小 猫 遠 合 せ

ちんし 鴨 ち

護 借 ちんし 笑 狐 借 ち

ちんし 身 ち

ちんし 陽 田 ち 柳 身

利 八 十 分

ちんし 柳 ち ちんし

小 ちんし ちんし ちんし

理 ち

ちんし ちんし ちんし

カ 士 の ち

布 ちんし ちんし 織 ちんし

大 道 ちんし 柳 の ちんし ちんし

首 と ちんし ちんし 首 ちんし 仕

後抄終

旦於の廟持々た

勝ものしきぬお重持

氷豆腐へも燭持

ぬきつり

えぢつて豆いおゆーど

言較らんお店出

よせのちんは着て、座

重くはつて、お履

ぬしお出来

さしのは原に懐か消え

らまひの

廣くはつて、お

湯屋の男が下駄

こアとつと履て造

筒

けくはつて、お

子供の徳しや是

海

森りたてあましく仕てあつ

菊屋直一

磁土の砂が薄く

思ひおこす

ナト終入るめくさす

香伝

丸いものを字に執り

桐の蕃椒を一つ

炭

飯よむは長かき仕

先付あ屋の油屋

昨日の讀下

折

是は貴公の愛の傘

布

敷一膳どけ交て来

真

何回もハイな

着る家へ仕出

由

先、そらしく出、喉ひ

喉、喉、喉、喉、喉

子トテ、心、心、心、心

マツト付、マツト付

便毒、便毒、便毒、便毒

船、船、船、船、船

マツト集、マツト集

挑、挑、挑、挑、挑

マ、心、心、心

極、極、極、極、極

や、時、時、時、時

か、い、い、い、い

三、筋、筋、筋、筋

葉、葉、葉、葉、葉

麦、飯、飯、飯、飯

マ、マ、マ、マ、マ

聖、聖、聖、聖、聖

マ、マ、マ、マ、マ

蘇、蘇、蘇、蘇、蘇

可、形、形、形、形

丸くう海へ角たぐれ
痺た枕後と記す

お森様あがら

粥 夢し 聖き 把づ

大江山

石体とく 月と竹

狭 積む 止いり 紙つしぬ

紙 下ふと 投 孤直

一本 痛く 指しゆく

うくもる 止いあう 向

女がさう

蹴 尻 づつ 尻 拾ひ

おきえい ちうわとアノ 悪口

納つとく

痛さうな 脚 変死

い、い 借つとくと

あんぞ 街、あごよ 喰そんい

暗いお

功者いあまご 筒がまひ

丸人あまご 陥入色

おとろし海

まはる闇の灯より

庭よりお上り詰まる

ちむつく角の庭りすね

おとろし

清酒のからむ情状

思ひ出し

慥に海援一ツ言ひ

笑ひし

年中松屋で将ひ

おとろし海

お傘と松口も入る

煙草め

氷砂箱や膠を吞

長束のおこし新陰

風凰の橋の下ちろ

送状出しそんて

八日とある文章張

法衣子さんの言付

名乗る角力ぬお

見なく盤

七ヶ村々 尻込

心通し 喰通し

輪 巻

上

若中 挑

合

茶

通

方

胸

部

然

層

扇

提

鏡

鏡

法ほつ分ぶん雜ざつ巾きん綿わた慶けい綾あやと

鏡かがみと向むかひ

昆こゝろ布ぬい屋や能ねん看かん板ばん張ちやう直ちやくし

六ろく根こん法ほつ清せい淨じやうたゞ純じゆんと

費えいししててるる子こ孫そん抱だかくく遇ぐと

可か愛あいららしし

松まつのの渡わたをを道みちにに下くだりりててもも見みんん也や

子こ孫そん紅こう上じやうとと大だいがが遠とほくく

いいしし

龍りゆう神しんととみみのの角かくををとと入いるる

おおつつままのの西せい風ふう勢せいああままのの

ここのの持もち事こととといいつつてていいふふはは

考えんふふ者もの

おおままのの懐なつかもも愛あいししぬぬやや

結むすぶぶ情なさけももああままののいいははぬぬ

ああままののいいははぬぬののややももああままのの

いいしし

蘇そ屋やのの店みせのの川がはとと海うみ

情なさけいいししぬぬははしし

穴あなののああままのの事ことをを穴あなにに埋うめふふ

香のあつし

退身堂のあつし

あつし

モのお 嚙さん

あつし

あつし 方いさうません

清親のを紙なぐ

あつし かいふんこやう

あつし 右折あつし

あつし

娘の針の宛のを

あつし

あつし 茶をよ

あつし 押し

あつし

あつし

あつし

あつし

あつし

あつし 赤い寺内で

あゝ 嘆息

後のおとよし 眩暈

よろこんで

今 汲みし水 氷遊び

あをわんおかしきいふてふ

一葉ちりつて口へ入る

吹く硝子の息が 授け

たすね 唾へとるよ

とへてア人ぞ 知るふんが

又 干すさぬて

帯 掛け 渡シ ニツ 歌し

よ 記 する 頼む

精進がやけど 安んじを

一ト 顔 晦日 2 ヲ して

夕づゝい 借して 巻

傘 2 一本 出さ せや は

らん どの ころ ぬ け

すや し 振る 糸

サア お 洗ひ 元 結 切

よんか人

素^そま^まの^のつ^つさ^さと^とつ^つら^らな^な

慈^よど^どし^し

子^こ供^ごの^のや^やら^らぬ^ぬ仲^なり^りぢ^ぢや^やぞ

あ^あん^んで^でも^もい^いら^らぬ^ぬ習^しの^のぢ^ぢや^や

て^てア^アを^をい^いら^らぬ^ぬ仕^し舞^まひ^ひナ

能^よさ^ささ^さう^うあ^あ

コ^コレ^レ船^{せん}政^{せい}さん^{さん}の^のま^まま^ま

揚^や枝^え小^こ一^{いつ}刺^さと^と出^でし

ね^ねぶ^ぶし^しら^らみ^み

ぶ^ぶら^らも^も柳^{りゅう}で^で埃^あを^を積^つり

徳^{とく}の^の世^よの中^{ちゆう}

あ^あら^らま^まより^{より}ハ^ハ火^ひね^ねで^で惚^ぼと

三^{さん}日^{にち}が^が眉^{まゆ}より^{より}土^{つち}を^をま^まる

し^しし^し

そ^そあ^あら^らま^まの^の油^{あぶら}を^をあ^あら^らま^ま

か^かん^んじ^じさん^{さん}の^の性^{せい}を^をあ^あら^らま^ま

功^{こう}能^{のう}ハ^ハ用^{もち}ひ^ひて^て知^しる^る

あ^あら^らま^まの^の徳^{とく}

樹^きの^の上^{うへ}へ^へ人^{ひと}を^をま^まる

あやうきあやう

布の斤をふるが障

よむ障

いちやしんてまか

奉り

ろし湯を先沸り

へり口でせり肉でもめ

籠いまぬひニナ

玉とや

井戸と榊と摘蓮

籠とやいふ

えんどの様うむり

まきちやう

森からりきで魚森いふ

豆腐と鮓

れうまやふしいど

すいろう肉思ひ出

道楽とや

うまみ吸ふやつ先

烟管でうま張

まゝにたゞ

うんふと扱へるをり付

田もやう畔で

手ぬぐいこえんが志が

高くはいつ

うつとあれ晩の世界

やういん

六人きり法集用がをわい

鶏舟成り下り舟

大受取ぬき

二日しつと崩れぬぞ

よま泣き路しつと

大款引端

雑多三人で向かひ

折れさうふまの扇を捲

王子と盛后

羽根尻すそを付歩け

尻をかきかきと

礼いふ

風呂をききまきと脊骨

療治し

こらや者着るに備ふケド

水と油の漉し成り

こらに糲巾こらに糲

所並験あり

糲餅もいつも飲いの表也

其治し

こらと糲餅鼻く出せ

そのトふらせ

かぶる這りし系糲餅

糲餅の糲餅 糲餅

その糲餅

柳こら糲餅糲餅

糲餅糲餅糲餅

湯糲餅糲餅糲餅

糲餅糲餅

糲餅糲餅糲餅糲餅

糲餅糲餅

糲餅糲餅糲餅糲餅

糲餅糲餅糲餅糲餅

ちきぶけ 洗ひますしぬく
アノ懐鼻禪 ぬぬ入るん。

おぬいしてふ

いふ 北カキのふもふあふ

そんふちちふ

新田 ぼろいといを

其方そのまがわい

引ひ 格カキとあふよふこと

銅ついで口くちや

そふ店 乾かうの百ひゃくと 乾かうさ

月つきしよ

売うとよやち 多たふおや

取と 録ろくももての 獲とくさふ

はももま

此こ 名なももか 辯べんふさ

突つ飛とび

エイ けやうあ 向むかえぬ

都みやこの首くび經へい

出いでふをころとやちまふ

むしやちや 学まなぶ 登のぼる 登のぼる

三十一

月晴し

雪うら雪の鏡たふ

月あつめ

いざが新紙あま

月あま

あまあま人あま

大まのまほほま

兄あま

近きまもあまあま

つまあ

陽まらあま

飯粒ふんごまあ

つまあ

引物まらあま

雪踏まらあま

描あま

芒のまらあま

念佛

あんでもあまあま

原のあまあま

久^{きう}之^し島^{しま}町^{まち}へ^へ出^で所^{ところ}

かんざんせ

こころは^{このこころ}松葉^{まつば}こころ^{こころ}

度^{たび}の^の切^きら^らぬ^ぬ入^い

二^{ふた}か^かへ^へ三^{さん}か^かし

口^{くち}で^でい^いふ^ふ引^ひき^き

も^もる^る買^かい^い物^{もの}

そ^その^の緒^つを^をも^もと^とめ^め

い^いふ^ふも^もの^のい^いふ^ふ

そ^その^のま^まか^かつ^つて^てる^ると^とい^いふ^ふ

かたてのこゝろ

さ^さら^らに^に竹^{たけ}と^とも^もな^なら^らぬ^ぬ

挽^ひき^きの^のま^まか^かつ^つて^てる^る

溝^{みぞ}の^のま^まか^かつ^つて^てる^る

あて

糸^{いと}の^のま^まか^かつ^つて^てる^る

字^じの^のま^まか^かつ^つて^てる^る

お

儀^ぎの^のま^まか^かつ^つて^てる^る

こ^この^のま^まか^かつ^つて^てる^る

淡くし

引くまわりの言

夜あまの晩よふまやん

まぶ引物を往くまよふ

いふ

人の肩うら口

出て見りや

ちよつと酒

産おまの

まよふおそつ

中

山より紅札肥後と

何

十九文屋も

茶種

お庄の方

とつと塩で油

お糸書

茶種

おん

三

長遠道

思ふ素もあつて出で仕

何時トヤ

蠟燭之を急げ

飯を喰ひて居るま

茶の室に付てあつて

各し襦き巻成し

紙屑をくみかき

殿へお参りし

親いつたふと只

おん時トヤ

痺のまじり

おん時トヤ

冬屋さんと

お接は

お参りし

天物の

物敷

人の

名

猫一丈五尺 一拾
女房の依るゝ囃
泣息一々

つよひとほりや一人
借るのも形たどやテト走

ふらあ入

ふんどしをかきよて
酒を

中し味

頤のおろりろがほい

骨一本で湯飲

中し如歩

小指の髪は毛よさ

中入トヤ

燭臺の灯もめぬ

清くをるるに洗

中よちよつがり

ちんぼ梅の蓋

ふらあ入

白湯の香るる鼻

よふ態の膽があつ

らちの海

うどんも交てふ集

蠟燭

戸にや飯

今脱

玉極

らん

ナニ

物新

ア

羅生門

灰の吹

飛

むちやく

乳母

妻飯

注

生海

馬

是

馬と牛で

せんぐま物の木の瘦は
米屋のお提燈の成り

牛ハ牛連

糠で濁った方へ入る

うきうき

佛のま子依お掛

統うめ

毎飲様の捧しをら

描の横顔をうう張り

福 さをき

肩う 弦はく 赤根葺

味噌汁の申 鯉が介

うらうら子

熊野の鳥ありをある

うらうら子

雪原の壁に雨の波

賣いお花

三良兵衛の髪は

ピラピラお下屋よおかし

能く甘く

糖ツキ上ウ下シ下モ磨シ磨シ

軟カが香カをクるル銀ギンをク歩フ

香カのニ通ス

ようユウ通ツをク一ヒトつツおオ便ベンとトやヤせ

香カがクうウあアひ

くクがカきキ小コ豆トウをク丸マめ

咽ノドがクらラしシ

酒サケ屋ヤをク何ナニかカしシをクまマをク

出デぬヌ研シぶブをクまマをクおオまマをク

観ミくらラしシ

ふフつツしシはハらラしシ一ヒト

くクらラしシ

松マツのノ梢ハタテとト光ヒカリをク見ミ入イ

アノアノやヤのノあア天アマ窓マダをクんンしシのノやヤをク

火ヒのノ切キりリのノさサまマんンのノ

癖クセがクつツまマ

まマをクらラくクづヅいイ世セにニ通ツるル

着キるル着キるル四シ五ゴ新シン

つツいイでデ一ヒト世セもモ買カいイるル一ヒト世セのノ

くまの味が味

おろしをうりしお松子がき
鮎みく口を合らぬ鮎

暮し及び

針あつきのよほつとま

ごまやしはいふ

つるまのや茶を各人

お拒へあたまへなるつる

よん洗んと給又痛い

せのうきまの振がむむ

願成執

たりの方よ着るやうあ

豆腐をふく月がけ

わつしとどわ

後つらう喰ね喰ざら

中ご后垣にそく入るね

筆法抄紙うら直し

焼餅

硝子ころるとおへと吹

二ツうらぬて返るゆら

やういふ

アアと入るいとやどつ書い

やう子抱

別さうよけの毎み除

やさしい

右之通も恨一虫

瀧の流き入る迄

ア否ヤのもさふくをね

侍中へ若

家根はれあし

丸盆持

はぶか炯ハ

箸が炭も古いや

障子張るのとや買

はくお

とらとと け

町飛脚

小やびる

まゆ

鈴ハ

見識

襦じゆひひ一いちノのガガンン踏ふき

茶ちや種しゆのの白はく障しやう子し明めい

咽のど洗あゆゆ湯ゆもも麻あささ也や

源げん氏しとと小こ泉せん

おお襦じゆひひ襦じゆの中のちゆう一いちああけ

毛け唐たう人じんあ

おおののききのの麗れいおおののききのの麗れいああののききのの麗れいああ

いいののああけけ

いいけけのの油ゆのの特とく々々いいののああけけ

床とこ代しろののききののああけけ

仁にんののああけけののああけけ

痲まし病びやうののああけけ

吹ふききののああけけ

ぶぶららししと

後ごののああけけ

引ひききののああけけ

二にののああけけ

精せい達たつ屋やののああけけ

ああののああけけ

不埒心

若日の日に眼が腫れ

ふつと云ふが身

環の描め性ぐらうん

暢喰うううエー

不足銭

此籠も空へ飛ぶより

ふんあし

雲の銀子とて入るや

富士の山

轉あつて暮らさるは

弦賣小賣の札に

見あかぐ鼻捲

うろたひ

捲く糸へ垢をいふ

右トい紙よるは咽通し

こゝろ鼻の下に

ついでと星も居る

は機嫌

附ケ木一枚ホイト燻

あつしおぶらう先子
あつしおぶらう先子

是はこゝろ

新義第ふて肩込入

らん赤腐つて損ふ下駄と

今やつてお仕もせぬ小

虎口そのがき

足のうちうう破うさる

あつしおぶらう

坊さん引割て居る

脊中と壁の回廊

あつしおぶらう

あつしおぶらうと尻込ヒウ

実志んらんといふやせん

あつしおぶらう

か議うさんハ米屋さん

元の通ふりよかばらと

次の中り白紙のつと

あつしおぶらう

これ懸ハよと説く

えんぢうろ
鏡の五ツハ何変トヤ
錠のかり〜錠るび買
と食みまがら

行くとまがだんあんら

ごうつろ

らハ鉄炮の湯がへらぬ

約と鞭ちぢ

か〜らぬ廿氏者ぢぢぢの縁えんの

弾い〜をや〜行あ〜

天幕てんまの上うへ

ぼと〜がと〜
〜が〜

こ〜の〜百變ひやくへん〜

表あはハ虫むし持もち〜こづ〜

あんどわお尻しり〜

ま〜

一眼いんげん一度いちど〜眼め〜

朝あさのあさ〜の〜

眉毛まゆげの〜

一文いちもん〜

手て〜

〇

并高ハちりして度
海々々々々々々々々
赤ん坊まゝあるまん

天は怪し

海へ成る迄釣て置

照らす燭臺

雪の煙来ハ九々び

出来の雪を雪来

小い雪お舞ふて街

不意用者と列

あ〜〜ひ

赤い雪が荒火であがり

舞う〜〜けの多路浪

扇が廣げ

草羽織をよつとふ

今更給へる雪は沸し

窓赤雪ふき口の肉

おのろろあふ一對のせ

具禮あがら出や〜

三名袋へ落〜

嵐をよし

夕やけの霞ころろと
見ハ咽う園子吐き

星えつら

赤らへに何れに
子の天神横くぬけ

あふあお

法むの碑に 瑠璃

あふあふ

活きこばで押通

幽霊の出ぬらよ

行燈

下の新目付を
燈上どもあひ

秋風

桐の葉を吹く

雨憎

お乳母一口吞

とあふあふ

赤名残を讀出

赤子抱き

いへ 幟ノボリでいへるまじ

脊中セナカの尾ビシ舟フネ志シをを囉ラふ

あーがんおね中ナカやう

口上クチウ書ガキををあよあよふ

油アブゆき

三十三さんじゅうさん約やく 鉢ハチで賣う

飛トビ鳥トリ川カハ

お叫なげ中ナカ志シややああ事コト

毛虫モウチュウ解トクるる運運

ああささ実み

今いま秋あきのの意いもも極ごくままるる

ああままががりり

ああままるるいいささりり

花はな屋やのの花はなとと遠とほくく花はな

秋あきのの夕ゆふ暮ぐれ

出で世よををううららみみめめららん

ささつつたたとと

吸す口くち吹ふけけおお尻しりささし

おお六むががああららるる屋やににささし

か鼻さん大いよとやあ
らん度 轉くろをせ
寄合云の帳直し

集用し

中ぶらふ 繕 度

下かへで 繕 物

ちぢいし 皮紙 捲く

盃

廣 びら びら

朝 鹿 びら びら 礼

ざまさん

泣 てる 度

あふん あり

座 禅 想

啖 脊 中

財 布 袋

柳 下 赤 じん ぼ

さそい

落 葉 ハ 咽

案 配 ぶり

小便^{せうべん}を用^{もち}の懐^{くわい}をこへ

酒^{さけ}の機^き嫌^{きら}で

羽^{はね}根^ねの糸^{いと}扱^{あつか}はるるより

はちまき

せんふらとびつらふら

極^{ごく}ツ

白^{しろ}銀^{ぎん}を討^うてんて

算^{さん}等^{とう}を算^{さん}する付^つて

木の葉^{きのは}ツ

懐^{くわい}のしぬや

まぶあまきくふ

うろくしぬの下^{した}く

あやう薬^{やく}箱^{ばう}うまひつが

まが

も一^い下^げ銀^{ぎん}懸^かふ

臺^{たい}こふ

まが

別^{べつ}く

店^{みせ}出^で返^{かへ}の

まが

きふ入

紙張と紙屑

安妙

お飯は喰うと又いふ

鹽はうしや 魁

いふ

あはるゑん 油あし

よんがどおし

浴衣は作らう

垣這う 筆さか

やう

くらり機

煙草とひき小使

道付

雪の肌

け果る石あ

夏のやう

根を古

くろく

そのとん履と又切

汗雜巾の取をえい

多々うつ

日ご入りや海のきりな

くろふとツ汲で

浴衣着

寅ふう寝まうつお借

給仕さすやぐ杯を

あづら

鮎ハ描工取まう

たふびとらん紙系を費

目つをちる

そくそ 浴衣取あんが

志多ぬ日脚を描ま

乳入とまあざよ

目出

三日月さんの物ねし

こぼる種ハ

うの物さや縁子飯が付

小判三両おとを

大將と呼びヤヨイ

糸巻の如く

かまんの穀ハ三ツ片一

年 出さる

あつとを煮いそれ蜜を

洗正張角く不呈 正

汲汲こぼし 片

かきお呉

下 迄 梅つていざらさま

ほせくろる ころら ちん

やつちんころら ちん

見く海

小まがてま 及古流く

か衣あど 酒あてあ

味 嚼 付

強ハさうどと 飛んを

代手ハ下手 持ッてん

くま

凡 形 ふちね 多 能 強

千 人の 武士 さま 幾ひ

蛭 蛸 の 如し

丁寔子書とぞ

汐時

もどめ 親子 親紙

諸方

基 讀 飯 喰 子 来 休

十日の 寫 奉 公 出 る

大坂の 虎 跡 室 加 上

法 基 上 子 事

志 也 進 入

連 中 下 也 進 入

仕 務

ま じ ぶ ぬ じ

油 石 灰 場 法 上 へ ぬ

志 也 進 入

丸 柳 傘 紙 上 へ ぬ

志 也 進 入

這 入 人 紙 帳 釣 へ ぬ

志 也 進 入

志 也 進 入

志 也 進 入

あふあつて

手形の人のかげまき

燭麿部

さしあがりし修向し

けんやうとあひ小さうし

あふあつて

かきまき無由おろし中

んきあがりし修向し

縁と月日

三字形と張る

日記

家内残りたは張る

片一廿房ハあふあつて

日記

あしあがりし修向し

淀こりあがりし修向し

筆留の子にあふあつて

額

いそがしあがりし修向し

四二張りし修向し

引いどろ

猶氏連城清出産

えよるとはすつとよま

おかし顔をしはるゑ

けいふまも王款

いそ

畑屋どやと半瓜

一ト

あつておつ

あ肉の女お泥

よ明日ハあ

東山

名れハ門のた

あ

る列を

あ

中からの

あ

あ

あ

まゝ味い

毒の毒ふかど膿

情出

いつも昔季の肉

急くまじ

志と権張

至土 齒

救生

お祖父さんの日

牙、王 暁

巨燧の中

世信紙

園為持

世信が

酒

縁

雀

普

嶺の

為

瀬五部セゴ

柳ヤナギの下したへ款くわんそくへ

千里せんりも一里いちり

若わ旦だん那なえんえん法ほふ勝しょうがが出でる

紅べにの縮ちぢみも縮ちぢみもの色いろ

数かず献けんううむむきき

益いよく吟ぎん海うみ冠かん現げんののりりきき

すかすかををささるる

波なみえんえん通とりりてて上ありり

すすののくくままと

日ひ傘かさのの下したにに冬ふゆのの月つき

小こ豆まめ或ある棒ぼうのの泣なみががききん

京きやう言ごん葉えふ

秋あき千せん牧ぼくエエヤヤオオイイキキ

京きやうととややも

かかのの柳やなぎ子このの鼻はな味あじははくく

茶ちや房ぼうの上のうへ牛うしつつああぶぶ

跋



連朝霖雨懶閱書曲
 肱暫欲不睡時門外
 木履音高各人未舉
 頭者是非僧非醫非
 也伎非易者疑問誰
 答戲坊駭起伴堂中
 先進瀉茶而後問其

用尚先生曰予今度
 題冠阿批塵一小冊
 上梓而欲肥書肆腹
 是則日日從諸社中
 予被乞撰書拔中當
 時流行人情句與且
 抱腹之各可笑味句
 書寫以遊此道初心

人之欲作棧足下跋
之多搔頭曰吾未嘗
誌跋不知味跋之必
吾取似此間振舞此
儀幾重各御免先生
又曰不左夫古語不
謂書者當座取不書
者未作取同是可有

取書飽乎此時初開
晤則以此談話雖換
跋不知焉哉平也於
處諸君勿笑云爾
天保十四癸卯癸月
下旬雨夜於燈下
蒼玉亭字露題



権崎草子由選書目

冠附机こころつひつきえ花はな
初編 既刻

全
二編 追刻

拈句玉の塵きりくまのちり
初編 近刻

全
二編 追刻

評くえん冠吟かんごん五百題ごひゃくだい
中本 全三冊

注しゆ冠吟かんごん五百題ごひゃくだい
は書ハ流石の冠句玉百題と云ふは
化句言多るもふまらうと云ふは
あつとくは解を起して佐例の一冊と云ふ

天保十四年癸卯孟秋發版之

京都 三條通寺町
丸 屋善兵衛

兵庫 本町
油 屋庄兵衛

若山 駿河町
阪本屋喜一郎

左海 大道筋九間町
河内屋久三郎

同 大小路通南入上之町
具足屋重兵衛

大阪 心齋橋南二丁目
敦賀屋九兵衛

同 同通北久堂寺町
鹽 屋平 助

同 同通博務町
伊丹屋善兵衛

林

書

蕭子